



学校の学びを生かした夏休み

校長 浮ヶ谷 優美

「おはようございます！」正門で元気な子どもたちを学校に迎え、学校モードにスイッチが入りました。

夏休みは、「人生を自律的によりよく生きる」ためのミニ練習期間でした。たった一日であっても、自分で決めたことを実行できた達成感を実感できたでしょうか。「この夏休みに成長できたことは何か？」をお子さんと一緒に振り返ってみてください。小さなことでできたことを自身の成長として自覚させることが、子どもの自信となり次の活動への意欲につながります。

本号では、夏休み中に見聞きした子どもたちの成長ぶりをご紹介します。四宮小で大切にしている「あいさつ・感謝・応援・役立つ」の4つのなかで、夏休みは特に、家・地域のために「役立つ」ことを意識し行動しようと終業式に子どもたちに話しました。早速、夏休みのラジオ体操会を主催してくださった四宮親交会の方からのうれしい話が届きました。盆踊り翌朝、先にごみ拾いをしていた大人の姿を見て、ラジオ体操に来た6年生の子どもたちが自主的にごみ拾いを始めたそうです。学校のリーダーである6年生が率先して行動したことをとてもうれしく思いました。初日のラジオ体操に私が参加した際にも、主催者の町会長さんをご挨拶で朝礼台に立つと、校庭の隅の方にいた子どもたちが校庭の真ん中や朝礼台前に前進して話を聞く態勢をとりました。みんなでラジオ体操をして気持ちの良い一日をスタートしようという当事者意識を高めていると思われる行動に、子どもたちの成長を感じました。

盆踊りでは、大人に楽しませてもらうだけでなく、子どもも盆踊りを盛り上げる活動に参画することを目指して、今年初めての取組として「子ども実行委員」を募集しました。「ぬり絵で会場を飾ろう」は、立

候補してくれた4～6年生8名が中心となって広報・募集・掲示準備を行った活動の一つです。校庭に飾られた100枚を超えるぬり絵の前に立ち止まり、自分の作品を探す親子の姿がたくさん見られ、思いの外、好評な取組でした。大人の実行委員会によると、来場者数が過去最高の2750人だったそうです。子ども自身が当事者となって様々な形で盆踊りに参画したことが、来場者のすそ野を広げたのかもしれません。この盆踊りは、実働部隊の現役・OB おやじの会を近隣町会が支える実行委員会が主催しており、限られた人数で準備や後片付けなどを担っている実態があります。正規メンバーにならなくても、できるときに、できる人が臨機応変に準備や後片付けに関わるなど、盆踊りを盛り上げる当事者の一人として、大人も子どももみんなで力を合わせていけるようになるといいなと思っています。

さらに、夏休み中に実施された NHK 合唱コンクール東京予選大会にて合唱団が金賞を受賞し、東京本選では奨励賞をいただきました。府中の森芸術劇場や文京シビック大ホールに立った子どもたちはとても輝いていました。目標にしていた本選での入賞が叶わず、号泣する子どもたちの様子が切なさを感じる場面もありましたが、うまくいかなかったときこそ次の飛躍のチャンスが潜んでいます。地道な練習を積み重ねコンクールに挑んで得た喜びや悲しみを子どもたちがこの先どう生かしていくのが楽しみです。

夏休みに英気を養った子どもや教職員とともに、2学期も気持ちを新たに、さらに一歩前へふみ出し、よりよい学校づくりと将来地域の一翼を担う人材の育成に努めてまいります。